

災害コーディネーターハンドブック 改訂中

平成20年度、横浜災害ボランティアネットワーク会議運営委員会では、「災害ボランティアコーディネーターハンドブック」の改訂について、検討を重ねてきました。初版は平成12年に阪神・淡路大震災の教訓から企画・発行されたものです。この8年の間に、能登半島地震、新潟県中越沖地震、岩手・宮城内陸地震など次々に大きな地震が発生し、そのたびに災害ボランティアセンターや災害ボランティアの活動が注目されてきました。災害に備える日々の活動の大切さが痛感される中、平成20年度事業計画において「コーディネーターハンドブック」の改訂が位置づけられました。

ハンドブックには、災害ボランティアセンター立ち上げの際の留意点や、ボランティアコーディネーターの役割のほか、「災害ボランティア登録簿」や「ニーズ受付カード」など、災害ボランティアセンターにそえておくべき様式集を掲載しています。

ハンドブックは、近々完成予定です。完成後は会員へ配布するほか、HPにも掲載する予定です。

<もくじより>

- ・災害ボランティアセンターと災害ボランティアコーディネーター
- ・センターの立ち上げとボランティア受け入れの方針づくり
- ・コーディネートの注意事項
- ・対応者別のコーディネート

<様式集より>

- ・災害ボランティア登録簿
- ・ボランティア活動の流れ・登録証明書
- ・ニーズ受付カード・活動報告
- ・ボランティア活動募集
- ・活動日誌 など・・・



義援金情報

共同募金会で募集中の情報です。義援金の振込先等は直接お問合せください。

義援金の名称	問合せ先
平成20年岩手・宮城内陸地震義援金	中央共同募金会 http://www.akaihane.or.jp TEL:03-3581-3846 FAX:03-3581-5755
平成19年新潟県中越沖地震義援金	新潟県共同募金会 http://www.h7.dion.ne.jp/~ni-kyobo TEL:025-281-5532 FAX:025-281-5533 ※平成21年7月16日(木)まで ※延長されました

横浜災害ボランティアネットワーク会議は、皆さんの会費で支えられています ご協力ありがとうございました!!

(平成21年2月1日～平成21年3月31日まで)



社会福祉法人 横浜市磯子区社会福祉協議会／磯子区災害ボランティアネットワーク／
瀬谷区災害ボランティアネットワーク／社会福祉法人 横浜市保土ヶ谷区社会福祉協議会
【順不同・敬称略】

今回は鶴見区の防災訓練に参加しました。各区・各団体で行われている特色ある防災訓練・防災活動の取り組みがありましたら、横浜災害ボランティアネットワーク会議事務局までお知らせください。

NEWS LETTER

横浜災害ボランティアネットワーク会議

編集・発行：横浜災害ボランティアネットワーク会議

〒231-8482 横浜市中区桜木町1-1 横浜市健康福祉総合センター8階

社会福祉法人横浜市社会福祉協議会内

TEL045-201-8620 FAX045-201-1620

ホームページ / <http://www.yokohama-saigai-vol-net.jp/>

2009年3月発行 No.41

「SOS」は黄色、「支援できます」は緑色のバンダナを 一横浜市社会福祉協議会 善意銀行

災害時という混乱した状況の中では、障害のある人が必要な支援を得られなかったり、支援できる人を見つけられなかったり、ということが起こりえます。そこで市内各地で「災害時には『支援してほしい→黄色』『支援できる→緑色』のバンダナをつけよう」という取り組みが進められています。

横浜市社会福祉協議会では、この取り組みを全市的に推進するために、黄色と緑色のバンダナを作成し、18区の社会福祉協議会へ配布することになりました。

財源は、市民の皆様からのご寄付による「善意銀行」です。地域福祉のために役立ててほしいという願いが込められています。災害ボランティア関係のシミュレーションやキャンペーン活動で活用してください。



各区社協に配布予定です。



横浜市社協のシンボルマークとキャッチコピー
レースが入っています。

防災冊子「わが子を災害から守るために」完成 —横浜栄・防災ボランティアネットワーク—

横浜栄・防災ボランティアネットワークにより刊行され、横浜市全区に100部ずつ配布されました。

横浜栄・防災ボランティアネットワークでは、地域で出前防災講座を開催しています。その中の「パパとママの防災講座」のノウハウを生かした冊子「わが子を災害から守るために」を、男女共同参画センター横浜の助成を受けて制作しました。

この冊子は子育てに忙しく、地域とのつながりも薄い若い世代の親向けの防災冊子となっており「子どもの命を守る」ための事前対策を重点に、「地域とのつながり」を持つことの大切さを訴え、乳幼児のいる家庭において、災害への備えのために何が必要か、またなぜ必要なのか、がポイントを押さえて示されています。

より詳しく知りたい方のためのホームページや参考文献、防災を身につけるための子ども用ゲームも紹介されています。

冊子内容は横浜栄・防災ボランティアネットワークのホームページでも見ることができます。

制作・発行：横浜栄・防災ボランティアネットワーク

協力：男女共同参画センター横浜

【内容の一例】

＜日常の備え＞

まずは家族で話し合ってみましょう
子どもの目線で危ないところをチェック
どんな転倒防止器具があるの？
普段から準備しておくもの
子どもを連れての避難はどんなもの？
家族との連絡方法は？ etc.

＜災害にあったら＞

災害から復旧まで
地震発生時の行動ポイント（家の中）
外出先での行動ポイント
災害時に横浜駅周辺にいたら
子どもの心の変化にも気をつけて
あなたが妊産婦だったら etc.



問合せ：栄区社会福祉協議会 TEL 894-8521

FAX 892-8974

横浜栄・防災ボランティアネットワーク <http://www.7b.biglobe.ne.jp/~houzan/>

『鶴見区暮らしガイダンス事業 外国人向けの防災訓練』 —鶴見区災害ボランティアネットワーク—

外国人と日本人がお互いを理解しあい、よい隣人として暮らしていくための取り組みである「鶴見区暮らしガイダンス事業」の一環として、平安小学校を会場に、外国人向けの防災訓練が行われました。当日は十数名の外国籍の人たちが参加し、英語・ポルトガル語・スペイン語・中国語など6ヶ国語の通訳ができました。

災害時は、地元の人たちも外国籍の人たちも、障害があってもなくても、高齢者でも子どもでも、誰もがみんな助けられ、助ける人になる可能性があります。「災害時、避難所には様々な人がいるということを知ってもらいたい」と今回の防災訓練の中で取り入れられたのが、鶴見区災害ボランティアネットワークのメンバーによる「災ボラパフォーマンス」というプログラムです。

＜「災ボラパフォーマンス」での説明より＞

①聴覚障害者救援：手話サークル連絡会のメンバーと聴覚障害者協会の方による実演披露。

- ・後ろから呼ばれても気づきにくいので、声をかける時は肩を叩いて呼びかける。
- ・情報は目で見てわかるように伝えたり、まわりの人が教える。
- ・コミュニケーションは身振り、手振りを交えて、また口を大きく開けてゆっくり話す。



②視覚障害者救援：視覚障害者支援ボランティアグループ「鶴見ブラインドメイト『フルツ』」のメンバーと視覚障害者福祉協会の方による実演披露。

- ・困っている様子があったら、肩や腕に触れ「何かお手伝いしましょうか」と声をかける。
- ・誘導の仕方は誘導者が半歩前に出て、二の腕をつかんでもらい歩く。誘導者は白杖を持ったり、後ろから押ししたりはしない。
- ・説明は「あっち、こっち」ではなく、具体的な場所を伝える。

③国際支援：日本語教室「なかま」「こんにちは」のボランティアの方からの説明。

- ・簡単な日本語でゆっくりと話す。

④知的障害者理解：障害児訓練会「ひよこ会」「エンゼルの会」の保護者・子ども達・ボランティアからの説明。

- ・言葉でうまく意思を伝えられない人たちが、絵を指して意思を伝えるためのツールとして「コミュニケーションボード」を作成した。
- ・災害時、助けて欲しい人が黄色いバンダナ、助けることができる人が緑のバンダナをつけて意思表示をするという取り組みを行っている。おそろいでなくても構わないので、防災グッズなどと一緒に用意しておいてください！



⑤高齢者・障害者支援：地元町内会の民生委員のみなさんによる車椅子介助の説明

後半は、グラウンドで、起震車体験・消火訓練・煙体験などの防災訓練を行いました。中でも注目を集めたのが、「簡易消火器」でした。

この訓練は、もともと鶴見区社協当事者団体部会から声上がり、平安町の協力で、実施に至ったものです。ボトルに液体が入ったこの消火器は、火元に投げるだけで初期消火ができ、高齢者の方や障害のある方、子どもなど誰でも簡単に消火することができます。実際に、訓練で燃え上がる火の中に「えい！」と投げてみると…たちまち火が消えてしまいました。便利な防災グッズの一つではないでしょうか。

鶴見区災害ボランティアネットワーク <http://www.yturumi-shakyo.jp/saigai/>